2024年度 実務経験のある教員等による授業科目

東京音楽大学

科目名称	単位数	科目区分	担当教員	教員経歴	授業内容
憲法	2	教養科目	沖山 延史	弁護士。労働事件を中心に多くの訴訟、労働審判、訴外交渉、団体交渉、労働局・労働基準監督署対応等の紛争案件を解決している。また、学生・生徒のいじめ問題をはじめとした学校法務に関わってきたほか、刑事弁護人活動等幅広い実務経験を有している。	まず憲法の定義、日本国憲法制定史、日本国憲法の三大原理を学んだのち、基本的人権の保障の歴史や各基本的人権の内容・主な争点を取りあげ、日本国憲法の基本的な考え方を理解する。
			佐野 知子	弁護士。一般民事から学校及び企業法務まで幅広い分野の訴訟・交渉等を担当するほか、司法研修所教官として後進の育成に携わるなど豊富な実務経験を有する。ハラスメント問題や危機管理に関する講演・執筆も多数。	
キャリアデザイン論	2		山本みどり	キャリアコンサルタント。学生へのキャリア形成支援、就職支援、キャリアカウンセラー業務とともに、社会人へのキャリア形成、ビジネスマナー、チームマネジメント教育も担当。現役企業人事、採用教育担当に長年取り組んでいる。	自身と自身を取り巻く社会の状況を理解し、将来に向かいこれからの大学生活をどのように過ごしていくかを考える。毎週授業内で「自己と向き合う課題」への取り組みを行い、他者との共有を行うことで「自身について言語化する」練習を重ねる。自身の強みを明確にし「やりたいこと」を「できること」にして将来に繋げ、この大学生活をキャリア形成の礎とする。
合唱3（声楽専攻） 合唱A（声楽専攻以外）	4	専門共通科目	志村　文彦	東京二期会、新国立劇場、日生劇場、びわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センター等、様々な舞台で数多くのオペラの演目に出演。宗教曲や合唱曲、コンサートのソリストとしても多数務める。また、東京オペラシンガーズをはじめ、合唱指導者、合唱メンバーとしての経験も豊富。	200名規模の合同練習の他に、パート別練習、発声・発音指導を行う。また、出演者選抜のオーディションを公演毎に実施するなど、きめ細かい指導を目指す。毎年恒例となっているベートーヴェンの第九のほか、国内外のプロオーケストラ団体からの依頼により多くの公演に出演している。授業では演奏会に向けての練習、及び出演を行う。
合唱4（声楽専攻） 合唱B（声楽専攻以外）	4				
作曲法	2		伊左治 直	室内楽100曲以上、合唱作品30曲以上発表では多数の受賞歴があり、またライブや編曲活動、演奏会企画や子供向け公演にも携わっている。	講義と実習を併用した形態による。作曲の原理に始まり、作曲の主要要素であるリズム・響き（和声）・旋律（及び対位法）など各方面からのアプローチによって、創作というものについて考察する。更にその発展形として、作品の構造分析・管弦楽法（楽器学）・編曲実習等にも触れる。 但し、クラスごとの特性や習熟具合によって若干内容や順番が変わることがあり、学生に応じてレッスン形式を織り交ぜるなど、臨機応変に多角的なアプローチがなされる。 各自の作品は、書くだけではなく実際に演奏もしてみる。そのため授業時間内に発表会形式の日が設けられる。
			植田 彰	これまでにオーケストラ作品を10曲、室内楽作品を30曲以上発表、200曲を超える編曲を手掛けるなど、作・編曲家として活動。	
			神山　奈々	50曲を超える作品は、内外の音楽祭で取り上げられ著名な演奏家、演奏団体により演奏されている。現代音楽の分野においてオーケストラ作品を主軸として、創作活動を展開する作曲家として活動。	
			久田 典子	これまでにオーケストラ、室内楽、室内オペラ、邦楽曲、合唱曲他を国内外で発表。楽譜出版、CDリリース等作曲家として活動している。近年では2024年ヨーロッパにて8作品が演奏され、2025年アメリカにて7作品の演奏予定等、国内外で様々な演奏経験と編曲活動がある。また「音楽づくり」のワークショップの経験も多数。	
指揮法Ⅰ	2		増井　信貴	1982年以降パリ・オペラ座やバイエルン国立歌劇場において数多くのオペラ上演に参加。1989年群馬交響楽団指揮者に就任。以後、ウィーン木管アンサンブルとの共演、ロストロポーヴィチ指揮新日本フィル定期演奏会での小オーケストラの指揮、長野冬季オリンピック開会式での「第九」演奏、さらにはテレビ出演やサイトウ・キネン・オーケストラのヨーロッパ公演への参加など、シンフォニー、オペラの両面で精力的な活動を続けている。	①教育現場で実際に指揮台に立つことを想定し、指揮の基本的なテクニックを理解する。 ②オーケストラやオペラなど、幅広い指揮者としての経験を生かし、様々な要求に応じて使い分けられる技術を、毎回テーマを決めて指導する。
			石坂　宏	10代から宗教曲を初めとする合唱作品に親しみ、指揮をする。 ヨーロッパ留学後同地の歌劇場と契約し、数多くの作品を指揮。同時にドイツ、スイスの音楽大学で計15年間学生を指導する。(オペラ、オーケストラ) 日本では新国立劇場オペラ音楽ヘッドコーチとして13年間活動。 最近では東京・春・音楽祭の子どものためのワーグナー公演の指揮を三年間続ける。	指揮者に必要な楽式的知識（曲のしくみ）を学びながら、様々な曲を題材にし、毎回技術的なテーマを決めて指揮の技法を学ぶ。 多くの作品の指揮してきた経験や新国立劇場楽ヘッドコーチの経験を生かし、音楽的クオリティーを高めるために歌手や演奏者たちに指揮者としての要求を的確に伝えることの大切さと方法についても指導する。
			三河　正典	国内外の多くのオーケストラ、合唱団の指揮をする他、新国立劇場、二期会をはじめとするオペラ公演や、サイトウキネンフェスティバル、アルゲリッチ音楽祭などでも合唱指揮者、アシスタントコンダクターとして活動している。 また、日本各地の合唱団の指揮および指導を務めその活動の一環として編曲した合唱曲集を出版。	指揮をするということは、「振る」ことだけではない。音楽的知識を持つことは勿論のこと、よりレベルの高い演奏を作り上げるために沢山のことを学ばなければならない。 この授業では多くのオーケストラや合唱団を指揮あるいは指導してきた経験を基に、音楽について、指揮者の役割について深く考察していく。
			三原　明人	ヨーロッパと日本を中心に各地のオーケストラを指揮。バロックから現代までの幅広いレパートリーを持ち、自らもオーケストラやアンサンブルを組織して活動している。	・講義、及びクラス全員がピアノを前にしての指揮実技を、常に演奏されるべき音楽と関連づけて修得する。 ・多くのオーケストラを指揮し、自身もヴィオラ奏者として活動してきた経験を踏まえ、指揮の基本的なテクニックを実践に生かす方法を指導する。
合計単位数	16				